

# 4 第1回 西小中台団地こども野外映画祭を開催しました。

7月25日（金）第一集会所 AB 室で、恒例になった映画会が行われました。午前が子供の部、午後が大人の部の二部制で上映を行い、終了後にはこちらも恒例になったカフェタイムを実施し、多くの参加者の方々に楽しんでいただきました。

また、8月2日（土）には、真夏の夜のショッピング広場で第1回西小中台団地こども野外映画祭が開催されました。こちらの映画祭は再生委員会メンバーの中の若い委員が中心となり、管理組合、再生委員会、自治会、睦、ショッピング関係者といった様々な方の協力を得ながら、企画・運営を行い、実現しました。

映画祭当日は、話題の最新作の上映ということもあり、こども、大人合わせて100名近くの方々に映画を楽しんでいただくことができました。参加したこども達は夏休みの思い出のひとつに、大人の方々にはいつもとは違ったショッピング広場の使い方を身をもって感じていただくことができたのではないのでしょうか。



撮影：福井啓介（西小中台団地青年会にしこ）

## 編集後記

団地に住み始めて2年が経ちました。団地のことをもっと知りたいと思い、自治会や団地再生委員会に入り活動をして行く中で、少しずつ仲間ができ、この夏、その仲間達と『映画祭』を企画することができました。『西小中台団地に住んで良かった』と思ってもらえるように今後も積極的に活動を行っていきたいと思います。団地の事を知りたい、団地の中に仲間をつくりたい。そんなことを考えている方はぜひ一緒に活動しませんか？（編集担当：岩ヶ谷）

新聞の名称を募集しています！

団地再生委員会 2014年第1号

発行日 平成26年8月3日  
 編集 団地再生委員会 広報担当  
 浜岡紀子、足羽智子、岩ヶ谷充  
 発行者 団地再生委員会（団地を良くする会）  
 西小中台団地青年会にしこ

# 団地再生委員会

- 1面 若い世代から選ばれる「子育てが楽しい団地」へ
- 3面 あらためて団地の管理について考えよう
- 2面 集会所横の壁画を小学生の皆さんと描き直しました。
- 4面 第1回西小中台団地こども野外映画祭開催報告ほか

## 1 若い世代から選ばれる「子育てが楽しい団地」へ

連日うだるような暑さが続いています。体調を壊されていませんか？

「人の暮らしと建物の両方を良くすること」を目標に団地再生委員会が出来て12年になります。この間、土曜日・映画会の定例化、棟別再生に向けたエレベーターや建替えの勉強会、集会所玄関・トイレに手すりや台所に棚をつけるなど、小さいけれどみなさんのお声に基づいた改修などを行ってきました。

また、最近は委員会に若い世代（20～30代）が入会してくれ、昨年の餅つき大会での（ショッピング広場の使い方の意見収集）に基づき、若い世代の委員が主体となり、今回のこども野外映画祭実施に繋がりました（詳しくは4面の記事をご覧ください）。若い世代の方々が加わってくれたことは、再生委員会が目標とする「子育てが楽しい団地へ」の第一歩。そしてこれは、『この団地でずっと暮らしてきた、これからも暮らしていく人たちが、安心して暮らし続けられること』に繋がると信じて、今年度も委員会活動を進めていきます。



### 団地再生委員会委員長から 新任と退任のあいさつをいただきました。

かつて「ダンチ」は輝いていました。「団地族」という新語が生まれ、新しいライフスタイルと文化の発信地でもあったのです。

しかし今、「ダンチ」はどこか寂しげです。築40年を経て、「住民の高齢化と建物の老朽化が同時進行する中で、「ダンチ」をどのように再生させていくか大きな課題となっています。それは老いも若きも子どもたちもみんなが安心して暮らせる新しいコミュニティづくりへの挑戦です。今こそ「ダンチ」の新しい未来を切り開くためにみんなの知恵と力を集める時ではないでしょうか。

総務部会長・団地再生委員会委員長 土谷一雄

この度、管理組合総務部会長から営繕部会長就任に伴い新総務部会長の土谷副理事長へバトンタッチしました。住民の皆様、委員の皆様を支えられてここまで委員会活動が出来た事に感謝申し上げます。

土曜日、映画会と今では恒例化した行事ですが、今年はこども野外映画祭が団地に住む若い人たちの企画、運営で実現できた事は今後の団地の活性化、委員会活動の新たな力として非常に喜ばしく思います。若い力で更なる新しい企画を考案、実現して行くことが委員会活動の柱になる事に期待したいと思います。

今後も住民の皆様のご協力・ご支援も併せて頂きたくお願い申し上げます。

営繕部会長 杉山 好男



## 2 集会所横の壁画を小学生と描き直しました

7月2日（水）午後2時より西小中台小学校1年生から6年生の約140名の参加で、「四季」をテーマに子供達の発想で自由に集会所横壁画を描いてもらいました（下記写真）。また、描き直す前の壁画は10年前「団地であそぼう会」の方々からの呼びかけで「四季」をテーマに当時の小学生が描いてくれたものです。

今回の絵の描き直しにあたり、10年前、西小中台小学校の児童として絵を描いてくれた松丸果可（みか）さんに、あたたかいメッセージをいただきましたので、ご紹介したいと思います。イベントに参加してくれた西小中台小学校の皆さん、メッセージをいただいた松丸さん、ありがとうございました！

### 10年前を思い出して

いつも登下校で使っていた坂道。今となっては普通に歩ける距離だが、小さい頃は必死になって歩いてきたことを今でも覚えている。

高学年になった頃、その坂道の壁に絵を描くんだけど、やってみない？と母に言われた時、なんて斬新で楽しそうなんだらうと、すぐにいいよと言った。

真っ白に塗られた壁。見た時はあまりに大きくて、何を描こうか悩んだが、絵の具筆を持った時には、いつの間にか絵を描き始めていた。

隣で絵を描いていた子も、目をキラキラさせながら描いていた。

楽しかった。

自分がどんな絵を描いたか、今でも覚えていないのも、本当に楽しかったらう。

完成してからは毎日その道を歩くのが楽しくなったような気がした。

そんな思い出の場所、また新しくして、絵を描くと母から聞いた時、自分の絵が無くなって寂しいという気持ちはなかった。

新しい世代の子が受け継ぎ、少しの幸せでも、自分があの時感じた幸せを同じように、たくさんの子が感じてくれると思って嬉しかった。

今度はどんな絵になるんだらう。

なかなか帰れる時はないけれど、実家に帰ったら、あの頃の気持ちで、思い出の場所を歩こうと思う。

団地について考える連載コラム。

## 3 あらためて団地の管理について考えよう。

### その4：「強み」を外部の若い世代にアピールしよう

合同会社集住計画代表／東北工業大学准教授 小杉 学

西小中台団地には、子育て世代が求めている安全安心な住環境や人間関係が存在し、それがこれから若い世代から選ばれる団地となるための「強み」である、ということをお話しました。

今回は、その「強み」を管理組合としてどのようにアピールするのか、ということについて考えます。

まず一つ目は、地域の不動産屋さんに、西小中台団地の「強み」を知ってもらい、中古物件を紹介するときにはこの「強み」をアピールしてもらうことです。この「強み」を気に入ってくれるお客さんが入居すれば、今後の西小中台団地の運営に協力してくれる可能性は高いでしょう。なぜなら、彼らは安全安心な子育て環境という「強み」を維持したいと考えるからです。逆に、その「強み」に関心が無かったり、特に重要とは思わないお客さんであれば、入居されてもそのような団地運営には関心が低いでしょうから、無理に西小中台団地を薦めなくても良いわけです。

団地再生委員会では、2011年1月に、実際に

西小中台団地の強みをアピールするパンフレットを作成し、地域の不動産屋さんに配布しました。この広報の2013年9月号の記事でもお伝えしていますが、不動産屋さんからは好評なようです。実際に西小中台団地に若い世代が増えたかどうか、その具体的な数の把握はされていないようですが、みなさんの実感としてはいかがでしょうか？

また、この取り組みに共感していただける居住者や権利者の方々にパンフレットを配布して、その親族やお友達に紹介していただくよう協力をお願いするのも良いでしょう。もちろん、そう簡単に「じゃあ西小中台団地に住もうかな」とは行きませんが、多くの人に西小中台団地が子育てに向いている団地だということを知ってもらうことは、若い世代を増やす可能性を高めるという点でとても重要です。

他にも、新聞や子育て関係の雑誌に記事として取り上げてもらうなども考えられるでしょう。

次回は、「強み」を維持していくこと、そして発展させていく方法について考えてみたいと思います。



はる 春



なつ 夏



あき 秋



ふゆ 冬

